

## 助成事業実施報告書

団体名 ちよつとよつてみ

代表者・役職名 氏名 麓 英里

## ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

## 1. 助成プロジェクト名

こども食堂支援助成 ちよつとよつてみ「みんなの다가しやさん」

## 2. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度

200円分の駄菓子が買える「みんなの다가しやさん」では10円、30円、40円、50円のコーナーのなかから、こどもたちが自分で計算しながら好きな駄菓子を購入していきます。生活困窮家庭や様々な課題をかかえたこどもたちも気軽に来られるよう、駄菓子は無料で提供します。大人が購入する場合は実費をいただきます。受付やレジ係は「やりたい!」というこどもたちが順番で運営していきます。お金の計算や買い物体験を通じて「子どもの学びの場」となります。まだ計算ができない幼稚園児や低学年には上級生と一緒に計算をするなど、他学年、多世代の交流が生まれ、社会性が身につけられる居場所にもなっています。ここで会ったこどもたちは、学年の垣根をこえて外で遊んだり、おしゃべりしたり、近くの公園に行ったりと次の居場所へと発展していき、「다가しやさん」はあらたな出会いと繋がり場所にもなります。

また同時に会場の個室に小中学生が自習をできる場をつくり、誰もいない自宅で孤独感を感じているこどもたちに学びの場を提供しています。

こどもたちはこうした居場所で人と緩やかにつながることで「生きる力」を自然につけていきます。

## 3. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度

毎月第2水曜日、年間12回開催し、合計2420人の参加がありました。다가しやさんは、こどもたちの間で広まり、気兼ねなく来られる「居場所」になりました。こどもたちの「やりたい!」はレジ係や受付だけでなく、少なくなった駄菓子の補充や計算のお手伝いなど、周りの様子を察知し自ら行動する力もついていきます。他者を思いやる気持ちや年齢関係なく関わり合える、優しい雰囲気居場所になりました。会場の個室では自習室を設けました。回を重ねるごとに少人数ではあるもののお互いに教え合う姿や悩みを相談する場にもなりました。「今日はパンをもらえますか?」と生活困窮家庭のこどもたちが「HELP」をいえる場にもなってきました。

こうした活動を見かけた地域のおばあちゃんが、駄菓子の寄附をしてくれたこともありました。この事業を通して、思いやりの種が波及していきました。

## 4. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字程度

「こどもたちの可能性をつくる居場所」としての다가しやさんはゆるい繋がりきつかけ作りの場所になりました。今後も継続していくことで、こどもたちが抱える課題解決につながっていくと思います。地域の方々には趣旨を理解していただき、地域で見守る活動に展開していきたいと考えています。

## 5. 参考資料

プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等のデータ。活動の様子がわかる写真などを必ず別途ご提供ください

